

大洲市消費生活センター通信

公的機関をかたる電話に気をつけて

今回は、「公的機関をかたる不審な電話など」についてお伝えします。

こんな連絡入っていませんか

「医療費の還付があるので、ATMで手続きしてください」

「あなたの口座が悪用されている。通帳とカードを預かります」

「年金をもらっていますか。貯蓄額はいくらですか」

「あなたの個人情報をご代わりに削除してあげます」

など

市役所や警察、消費生活センターなどが、このような言葉で連絡をすることはありません。

なかには、巧みに個人情報を聞き出し、その情報を悪用されるケースもあります。

まずは、本当に公的機関からの連絡かどうか確かめましょう。相手の所属機関名や氏名などを聞き、所属機関の正しい代表番号にかけることで確認ができます。

電話帳や番号案内などで確認できない機関名の場合には、怪しい電話であった可能性が高くなります。

また、留守番電話機能やナンバーディスプレイを活用することも効果的です。警察署では、数に限りがありますが迷惑電話チェックの貸し出しを行っています。

「こんな電話が入った」「本当に公的機関がこのような事を言うのか」など、気になることがあります。もししたら、お気軽に消費生活センターや警察署にご相談ください。

【問い合わせ先】

大洲市消費生活センター

☎241790

【相談受付時間】

午前9時～正午、午後1時～5時

(祝日除く月～金曜日)



文化財

矢落川のゲンジボタル発生地
愛媛県指定天然記念物
国所有



矢落川の上流、田処から喜多山の矢落橋に至る約12kmの区間が、ゲンジボタルの発生地として指定されています。

この区間は、藩政時代に植えられたメダケ類がよく繁茂し、水流も穏やかで、さらに比較的水質も良好です。そのため、蛍の幼虫の餌となるカワナ(巻貝の一種)が生息するのに適していて、毎年多くの蛍が発生しています。

地元では「柳沢げんじぼたる保存会」が、蛍の養殖や生息地の整備など、蛍の生息しやすい環境を守る取り組みを続けています。また、毎年6月上旬～中旬には「柳沢ほたるまつり」が開催され、多くの見物客でにぎわいます。

(昭和34年12月25日指定)

野鳥

キョウジョシギ(京女鷗)
チドリ目シギ科
全長 22cm



広く南半球で越冬して、北極圏で繁殖するシギの仲間です。その長旅の途中、日本の沿岸に立ち寄ります。名前の由来は、シギ類の中でも独特のカラフルな色合いのため、京都の女性の着物をイメージしたという説と、「ギョギョギョ」または「キョキョキョ」と聞こえる鳴き声からつけられたという説があります。

餌の捕り方が独特で、小石を短い嘴でひっくり返し、裏側の甲殻類や昆虫、ゴカイ類を食べます。普通シギの仲間は、長い嘴と足が一般的ですが、種類によっては食べ方や捕食相手によって、体のつくりを進化させてきたようです。

1億5千万年の長い進化の過程で、身の丈以上のことをしない限り、ほかの仲間たちとの食物の奪い合いも起こらなくなりました。新参者の人類も、あくまで地球の一員だと気付けば、争い事もなくなり平和な未来が訪れるような気がします。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト④

6月は土砂災害防止月間です

土砂災害発生の前兆

こんな現象には、注意してください

土石流



- ▽川の水が異常に濁る
- ▽川の水位が激減する
- ▽転石の音がある
- ▽流木が発生する
- ▽土臭いにおいがする
- ▽地鳴りがする

がけ崩れ



- ▽がけから小石が落ちてくる
- ▽がけに亀裂が発生する
- ▽湧き水の濁り、停止、噴出
- ▽湧き水の量が増える
- ▽地鳴りがする
- ▽木の根が切れる音がある

地すべり



- ▽井戸水が濁る
- ▽池や沼の水かさが急変する
- ▽地面に亀裂や段差が発生する
- ▽地面が振動する
- ▽樹木が傾く
- ▽地鳴り、山鳴りが発生する

「土砂災害危険箇所」と「土砂災害警戒区域」を確認しよう

お住まいの場所が、「土砂災害危険箇所」または「土砂災害警戒区域」になっていないか確認し、日ごろから土砂災害に備え、早めの避難を心がけましょう。

「土砂災害危険箇所」は、愛媛県と大洲市のホームページで確認できるほか、お近くの公民館でも確認することができます。また、愛媛県では、「土砂災害警戒区域」の基礎調査結果を2月23日に公表しました。調査結果は、愛媛県ホームページのほか、愛媛県大洲土木事務所、市危機管理課または建設課でも閲覧できます。

▽愛媛県土砂災害危険箇所マップ <http://www.pref.ehime.jp/h40700/5743/dmap/>

▽土砂災害警戒区域調査結果 http://www.pref.ehime.jp/h40700/5743/dosyaboushihou/kisotyousakekka_kouhyou.html

▽大洲市土砂災害危険箇所マップ <https://www.city.ozu.ehime.jp/soshiki/kikikanri/0374.html>

土砂災害警戒情報に注意

大雨警報（土砂災害）が発表されている状況で、土砂災害発生危険度がさらに高まると、松山地方気象台と愛媛県が共同で土砂災害警戒情報を発表します。



テレビやラジオなどで放送されるので、情報を逃さないようにしましょう。

避難勧告などに注意

大洲市は、土砂災害警戒情報が発表されるなど、災害の危険度が高まってくると、避難勧告などを発令し、防災行政無線、広報車、緊急速報メ



ールなどにより、みなさんにお知らせします。また、日ごろから指定避難所を市公式ホームページで確認し、避難に備えましょう。

▽大洲市指定避難所ホームページ掲載先

<http://www.city.ozu.ehime.jp/soshiki/kikikanri/0371.html>

大洲藩主加藤家の文化財（最終幕）

加藤泰秋（かとうやすあき）



大洲藩13代藩主加藤泰秋は、弘化3年（1846）11代藩主泰幹の子として大洲に生まれました。元治元年（1864）5月、兄で12代藩主泰社の政事相談役に任じられますが、8月、兄の急死により19歳で家督を相続しました。

泰秋が藩主に就任したころは、幕末の動乱時期であり、藩の去就を判断するため、慶応2年（1866）から数回にわたり土佐藩に使者を派遣して情報収集を行いました。また、慶応3年（1867）10月、大政奉還が行われると、形勢査察のために長州藩へ使者を遣わし、上京のタイミングを狙っていた長州藩との間で、大洲藩が警衛していた西宮から藩兵を上陸させる密約を結びました。これにより、荷物の陸揚げ、宿の割り付けをはじめ、提灯・合印など大洲

藩のものを使用させるなど、藩を挙げて長州藩兵の上陸援護を行いました。

慶応4年（1868）、鳥羽・伏見の戦いをきっかけに始まった戊辰戦争では、大洲藩は2小隊（武成隊）約120人を派遣し、東北地方まで転戦しました。大洲の八幡神社には、今泉村（現在の福島県須賀川市）まで転戦した武成隊の様子を描いた絵馬が掲げられています。

明治元年（1868）、泰秋は、明治天皇の東京行幸に際して、行列の前駆を任せられます。騎馬で藩兵を率いて先導する泰秋の姿は、大洲藩の有終の誉を飾るものであったと伝えられています。

明治4年（1871）の廃藩置県後は東京へ移住し、5年間明宮（のちの大正天皇）に奉仕すると、大正15年（1926）、東京において81歳で没しました。



加藤泰秋の墓所（龍護山）

大洲商工会議所青年部 大洲ご当地クイズ

毎年6月1日は、大洲うかい開きの日です。

大洲のうかいは、江戸時代ころから行われていました。明治以降は衰退していましたが、昭和32年に観光うかいとして復活し、現在では、大洲市の夏の風物詩となっています。鵜船と屋形船の並走距離が長いこと、うかいの様子が近距離で見られること、一人からでも楽しめる乗合船があることなどが、大洲のうかいの魅力です。

【今月のクイズ】

大洲のうかいを支えている鵜の夫婦がいます。その名前は、それぞれ何でしょうか。

- ① 「たろう」と「じろう」
- ② 「たかし」と「えみ」
- ③ 「ゆう」と「あい」



【先月号のクイズの解答・解説】

富士山は大洲盆地の中心に位置し、西日本有数のつつじの名所です。富士山のつつじは、およそ何本あるでしょうか。

- ① 約42,000本
- ② 約53,000本
- ③ 約63,000本

解答…③

解説…山頂付近は富士山公園として整備され、約63,000本のつつじが植えられていて、西日本有数のつつじの名所として有名です。大洲商工会議所青年部が運営をしている富士山観光売店では、名物の若竹弁当をはじめ、しぐれや月窓餅などが販売され、訪れた人の憩いの場となっています。



※今月のクイズの答えは、広報大洲7月号に掲載します。

シリーズ・大洲市地域づくり表彰

平成26年度「大洲市地域づくり表彰」を受賞されたみなさん（4個人、9団体）を、シリーズでご紹介します。



地域づくりに貢献

藤田 ^{さだお} 貞雄さん
(五郎)

「感謝の気持ちを忘れずに」

五郎地区に大洲を代表する観光名所を、という思いから平成3年に五郎花を愛する会を結成しました。

農家ならではの知恵と技術を生かして毎年菜の花まつりを開催し、平成25年には国土交通省から感謝状を頂戴できたのも、先人たちの努力と地区住民の協力や団結、思いやりの賜物だと思っています。

今までどおり、菜の花を多くの方々に楽しんでもらえるよう、まずは自分たちが楽しんで続けることが目標です。



環境美化に貢献

尾上 ^{きよのり} 清則さん
(肱南)

「憩いの場をいつまでもきれいに」

私は長年にわたり、大洲市公園等施設管理推進協議会の会長を務めさせていただきました。また、私の住む大洲13区は、大洲城の内堀菖蒲園を清掃していることもあり、人一倍、内堀菖蒲園に愛着があります。

私自身の活動日は「気になった時」。除草やゴミ拾いをはじめ、繁殖に取り組んだメダカやヘイケボタルの様子も見守っています。

市民や観光客に楽しんでもらうため、これからも微力ながら、住みよい地域のまちづくり活動を続けていきたいと思っています。



地域づくりに貢献

井上 ^{みつこ} 光子さん
(南久米)

「世代を超えたふれあいを」

私は現在、南久米老人クラブ会長としての活動のほかに、毎年11月に女性学級の「干支のちぎり絵教室」、12月には公民館事業の「しめ縄づくり」の講師をしています。

地域には、すばらしい歴史があります。その古き良きものを継承していくには、言葉で伝えるよりも実際に経験してもらうことが重要だと私は考えています。

今後は、地域の子どもたちを含めた世代間交流の機会を増やすなど、体験型行事にも力を入れたいと思っています。



地域づくりに貢献

西尾 ^{よしつぐ} 義継さん
(田口)

「親から子、子から孫へ」

私が田口地区老人会会長として携わった事業の一つに、平成13年度にスタートした「三世代交流ふれあいたんぼ」があります。水稻やトウモロコシ、サトイモなどの植え付けと収穫のほか、どんど焼きや節分豆まきなどを通じ、近隣住民の世代間交流と子どもたちの健全育成を図ってきました。

私たちはもちろん、子世代が積極的にかかわることで、孫世代の感謝の心や共助の心が育まれることを願っています。





5月3日(日)

地域の子もたちの成長を願って ～大川鯉のぼり川渡し～

今年で8回目を迎える、大川鯉のぼり祭が大川公民館前広場で開催されました。

会場では、寄贈された鯉のぼり約200匹が雄大に泳ぎ、大成保育所児童と脇流苑利用者手作りの鯉のぼりが祭りに花を添えていました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、出店や催し物があり、多くの人でにぎわいました。



4月17日(金)

年に一度の一般公開 ～沖浦観音春季大祭～

長浜町沖浦のぼんしょうざんずいりょうじ萬松山瑞龍寺で、沖浦観音春季大祭が開催されました。この日は、国の重要文化財「木造十一面観音立像」が一般公開されることから、市内外から多くの人が訪れました。

正午に始まった餅まき・福まきでは、餅と一緒にくじが入った竹筒もまかれ、一つでも多くの福を手に入れようと大きな歓声が上がっていました。



5月10日(日)

6年4カ月で100万人 ～市立図書館入館者100万人達成～

平成21年1月に開館した市立図書館の入館者が、この日100万人に到達しました。

大洲市長から記念証と記念品などを受け取った徳田夕希子ゆきこさん親子（徳森）は、「まさか自分が100万人目になるとは思っていなかったので、びっくりすると同時にうれしく思う。これからも、図書館を利用したい」と喜びを話されました。



4月22日(水)

第一ゲート通過 ～鹿野川湖ゲートボール大会～

春の鹿野川湖周遊企画のイベントのひとつ、鹿野川湖ゲートボール大会が、脇川町大駄場おわたばふれあい広場で開催されました。大洲市内はもとより、宇和島市や伊方町から24チーム145人が参加しての大会となりました。

前日の雨もあがり、選手たちは快晴のなか、日ごろの練習の成果を発揮し、熱戦を繰り広げました。



大和小学校と長浜小学校が統合

大洲市学校統合同意書調印式

大和小学校と長浜小学校との統合同意書調印式が4月26日(日)、大和小学校体育館で行われました。

開会で清水市長は、閉校となる大和小学校区の英断に謝意を示すとともに「過疎化・少子化の影響とはいえ、輝かしい歴史と伝統を築いてきた歴史に幕を下ろすことになった。次代を担う子どもたちの将来を見据え、今後の教育環境の整備と地域振興に力を尽くしたい」と述べました。

関係者による統合同意書への署名後、両校区の統廃合検討委員会の委員長があいさつを行い、大和小学校の叶岡廣志委員長は「校舎の耐震強度などさまざまな問題が



あり、子どもたちを安全に安心して通学させるために話し合い、今回の合意を決断した。これからも、地域住民が一致団結して活性化に取り組みたい」と語られました。続いて、長浜小学校の湊隼人委員長は「大和小学校の140年の歴史を、これから長浜小学校が受け継いでいく。児童数が増えるので設備が十分とは言えないが、これからもみなさんの協力をお願いしたい」と話されました。

今回の調印により、両校は平成28年4月に統合し、新たな「長浜小学校」としての歴史を刻むこととなります。

行政相談委員に委嘱

小澤功さん(大洲地区:再任)、相原敏幸さん(長浜地区:再任)、今宮雅司さん(肱川地区:新任)、河本治さん(河辺地区:新任)の4人が4月1日付けで、総務大臣から行政相談委員に委嘱されました。

行政相談委員は、住民のみなさんの行政に関する苦情や意見・要望をお聞きし、みなさんと市役所などの間に立ち、公平・中立的立場で相談に乗ります。

相談は無料で、秘密は厳守されますので、お気軽にご相談ください。各地区の相談場所および日時は、広報大洲24ページに掲載しています。



河本さん 今宮さん 相原さん 小澤さん

退任行政相談委員へ総務大臣感謝状などを贈呈

行政相談委員として尽力された功績をたたえ、櫻田和明さん(肱川地区)に総務大臣感謝状が、梅木キヨカさん(河辺地区)に愛媛行政評価事務所長感謝状が贈呈されました。

贈呈にあたり、櫻田さんは「私の担当地域は、平穏な地域で、相談件数はあまりなかったが、少しでも地域の人役に立てたことをうれしく思う」と述べられ、梅木さんは「あっという間に2年間で過ぎた。私の担当地域でも、高齢化が進み、相談者も年々減少している。今後も経験を生かし地域の人の役に立ちたい」と述べられました。



第51回 新就職者激励大会

4月17日(金)、新就職者激励大会がリジエール大洲で開催され、新就職者72人が出席しました。

主催者を代表して清水市長は「幅広い交友関係を持つことで、いろいろな考え方を見つけてほしい。また、地域のイベントにも積極的に参加し、大洲市の歴史・文化の伝承を担う人になってほしい」と述べました。

続いて社会人の先輩である、丸三産業株式会社近藤愛佳さんが「まずは、職場の先輩や同僚、上司の指導を受けながら、一日も早く職場に慣れてほしい。若さと情熱をもって自己研さんに励み、楽しみながら自分の道を切り開いてほしい」と激励の言葉を述べました。



新就職者を代表して、愛媛たいき農業協同組合津田真吾さんと株式会社愛媛銀行大洲支店往田紫織さんが「郷土の偉大な先輩に少しでも近づけるように、自分たちができること、なすべきことを見つけ、明るい未来に向けて行動したい。自分たちを取り巻く社会情勢は、厳しい状況にあるが、一層の自己啓発に努め、地域の伝統や文化を大切にしながら、地元産業の発展や温もりのある地域社会づくりに貢献できるよう努力したい」とお礼の言葉を述べました。

その後、関係者と新就職者との交流会が行われ、新就職者が抱負や決意を発表しました。

肱川町土地改良区が銀章を受賞 ～地域農業の振興に貢献～

全国土地改良事業団体連合会が行っている全国土地改良功労者表彰で、肱川町土地改良区が銀章(団体表彰)を受賞しました。

肱川町土地改良区は、昭和61年2月にも同表彰の銅章を受賞しています。その後も今日まで役員および受益者が一致団結し、農業経営の合理化・近代化のため農業基盤を整備し、地域農業の発展のために寄与してきたことが高く評価され、今回の受賞につながりました。



今宮雅司理事長(左)と宮田章前理事長

初期消火者に感謝状を贈呈

市役所長浜支所において4月27日(月)、大洲消防署より三秋雅義さん(柴)に感謝状が贈呈されました。

三秋さんは、4月14日(火)午前8時ころに、大洲市柴で発生した建物火災現場において、119番通報を行うとともに、水バケツを使用して初期消火を行い、被害を最小限に抑えました。

今回の受賞に対し「当然のことをしただけで、感謝状をもらうほどのことをしたとは思っていない。これからも、少しでも地区の被害が無くなるよう、注意していきたい」と受賞の喜びを語られました。

